

令和6年度学校関係者評価書

令和7年1月30日
豊小学校学校関係者評価委員会

【第2回学校関係者評価委員会】

- 1 実施日 令和7年1月24日（金）
- 2 会場 豊小学校相談室
- 3 参加者

（1）学校関係者評価委員

| No. | 氏名 | 役職 | 備考 |
|-----|--------|--------------------------|-----------|
| 1 | 佐久間 直樹 | 豊地区自治会会長 | |
| 2 | 梅本 澄雄 | 元本校校長 | 当日都合により欠席 |
| 3 | 津久井 豊徳 | 豊地区教育振興会会長・元校長（楡形中学校） | |
| 4 | 築野 一彦 | 小中一貫教育推進協議会委員・元校長（白根百田小） | |
| 5 | 吹野 武文 | 元豊地区主任児童委員 | |
| 6 | 森 まゆみ | P T A会長（保護者代表） | |

（2）学校職員（3名）

| No. | 氏名 | 役職 | 備考 |
|-----|--------|------|-------------|
| 1 | 井上 武人 | 校長 | 本校在籍2年目 |
| 2 | 福井 初美 | 教頭 | 本校在籍1年目／事務局 |
| 3 | 相田 由希子 | 教務主任 | 本校在籍5年目 |

4 学校から提案された内容

- （1）教職員による自己評価アンケートの状況
- （2）学校生活に関する児童アンケートの状況
- （3）学校生活に関する保護者アンケートの状況
- （3）豊小学校後期自己評価書（アンケートの分析及び改善方策について）

5 協議内容・意見

○豊小学校自己評価書に対する考察

（教職員・児童・保護者アンケートの考察／改善方策に対する検証）

（1）学校経営・組織について

- ・児童のアンケートで「①わたしは学校が楽しい」が95.0%、「⑨わたしは学校の授業が分かる」が95.4%、これは前期に比べても非常に上がっていて素晴らしい。先生方が分かるための工夫をしているということだと思う。学校は安心安全なところでなければだめだから、この「学校が楽しい」は非常にいい結果だと思う。
- ・教職員の評価でAよりBが多いという項目があるが、先生方に欲があって「まだまだやれるのではないか」と考える証拠ではないかと思う。
- ・例えば教職員アンケートの「⑳あなたは教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の

教育力を生かす指導を行っていますか。」のような項目は、学校にはいろいろな立場の先生がいるので地域の施設を活用したくてもする立場ではない先生もいると思う。そういう先生がABには付けられないのではないか。C評価があるからと気にしなくてもよいと思う。

- ・例えば「校内研に主体的に関わる」も同じで立場上主体的に関わっていない先生もいるのではないか。評価が下がっているのを気にする必要はないのではないか。

⇒このアンケート項目は楡形地区の小中一貫で揃えているので、そこでも同じような意見が出ている。来年度項目の書き方について再度検討していくことも必要。

(2) 学習指導について

- ・「⑨学校の授業がよくわかる」というのは先生方の工夫がかなり影響してよくなっているのだと思う。それが前期よりアップしているのは素晴らしい。保護者も見ていただいてよかったですと感じていると思う。
- ・携帯電話の所持率が上がるとやはり読書量が減ってくるのか。
- ・携帯やゲームを始めると夢中になり、子供は実際本を読んでないと感じることがある。
- ・読書のところが少し低いのは、読む機会もなかなかないからかもしれない。宿題で音読があるからそれだけでも助かる。以前は音読の宿題で親が聞いていたため負担があったが、今は録画を提出すれば済むため何かと安心できる。

(3) 生徒指導・生活指導について

- ・指導で昔から言われているのは、「ゲーム、自転車、携帯を買うのは親で指導するのは学校だ。」ということ。間違った考え方であると思うけれども、そういう実態もある。特に自転車は買ったなら保護者が付き合って、どこで止まればいいのかというのを保護者の責任のもと使い方を教えるべきではないか。問題なのはスマホで、アンケート結果を見るとルールを決めないで、与えてしまう家庭があるのではないか。今後も学校で情報を発信していく必要があると思う。
- ・今ゲームはスマホでやっている。友達と集まる必要がないから自分の部屋などで遊んでいると様子が見えない。
- ・「学校が楽しくない」と言っている5%の児童を見逃すわけにはいかないというところはとても大切なこと。すべての先生に共有してほしい。
- ・5%の児童はクラスの1~2人である。その子がどうしたら楽しくなるかと考えたとき、教師にできることは1日に一言でも声をかけたり触れあったりするように心がけることだと思う。自分の存在を先生も認めてくれていると感じられることが大切。

(4) 保護者・地域との連携について

- ・保護者アンケートには「E わからない」がある。関心が薄れているのか、子供たちが家に帰って話をしないからなのかかわからないが、E評価の回答も結構ある。家で児童から不満が出るようだったらCD評価になると思うので、結構高評価の方になるのではないか。
- ・Eと回答した保護者は本当に様子がわからないのだと思う。子供が何も言わなくて本当にわからないとか忙しくて後回しになっているとか…地域住民の声とか聞かれてもわからないのが現状ではないだろうか。
- ・保護者との連携というと、「保護者の皆さんこういうふうにするといいですよ」「こんな方法もありますよ」と学校が情報を与えることも連携の一つになると思う。
- ・学校が情報発信することは大切なこと。負担にならないようにできるだけやっていただけたらいいと思う。今は通知もメールで発信できるからペーパーレス化も意識してできるといい

と思う。

- ・ P T A活動について負担を減らす方向で考えてほしい。負担が減ればやりたくないという人も減ってくるのではないか。
- ・ P T Aに限らず、地域でも活動を続けることが難しくなっている。

(5) 小中一貫教育について

- ・ 小中一貫というのは中一ギャップを無くすということも目的の一つであると思うが、実際、中一の時に不登校になるという生徒は多いのか。

⇒3年前に取組を始めてから0にはなっていないが減っている傾向にある。

- ・ 例えば数学で小学校5、6年生で学んだことが結構難しいことをしていて、中学校でまた同じようなことを教えることもある。小中一貫で小学校ではこのくらい学習しているということが分かって中学での学習ができるといいと思う。

⇒授業の進め方も中学になると早くなるなど違いがあるので、中学の先生に小学校に来ていただいて中学校の授業を体験できる機会を設けている。今年も体育は他の小学校の6年生と中学校で一緒に行ったり、音楽の先生に小学校に来ていただいて授業をしていただいたりする予定である。

⇒小中の合唱交流や教職員同士の交流ということで互いの学校に行き行って授業を見合うなどの交流も行っている。

⇒Simpleプログラムという人間関係をよくする取組がある。それを小中一貫で同じ取組をしている。小学校では「あやめっこタイム」、中学校では「くっしータイム」という名称で行っているが、中学校では小学校からしてきていることなので安心感がでて、すぐに仲良くなれるという効果がある。

⇒昨年、総合的な学習の時間で学習したことをオンラインで発表交流をした。継続したSimpleプログラムの取組により、話す力や表現する力が育ってきているので、小学生でも本当に立派な発表ができていた。

⇒中学3年生は卒業論文のような形の発表をしたのだが、本当に立派だった。6年生も「中学生になったらこんな発表ができるようになるんだ」と目標を持つことができた。

- ・ いいことだと思うがのめりこむと心配なこともある。交流をやりと課題などもいろいろ出てくる。教育課程の中でどうやってやるのか、移動の時間はどうなのかなど。先生も子供も時間は限られているから予定されたものをやらなければというスタンスでやると苦しくなる。できなかったらしょうがないくらいの気持ちで取り組むことがいいと思う。

- ・ 小中一貫にしたからといっても親の心配は「いじめられる」とか「友だちの中に入れない」などの人間関係が心配。いじめられて行けなくなったという話を聞くのでそちらの方が心配。

⇒人間相互の関係をよくするための一つの手段としてSimpleプログラムがある。様々な面で成果は出ていると感じることが多い。

- ・ 今やっていること全てで中1ギャップを無くせることかという課題はあると思うが、そこはまた考えていかなければいけないところである。

(6) その他について

- ・ 働き方改革について改善するのに個人では限界があると思うのですが、学校で組織として取り組んでいることで何かうまくいっているところが分かれば教えていただきたい。

⇒働き方改革と言われているが、実際、学校の業務量全体が減っていないというのが実情。その中で以下の取組を行っている。

◇来年度の行事予定を検討しており、削減できるところ、簡略できるところの見直しを図っている。

◇校務分掌で体育主任の仕事をプール担当、球技会担当、陸上記録会担当と3つにわけ、仕事

の分散、軽減を図っている。また、仕事を若手にも与えることで若手育成も図っている。
◇集金業務を自動引き落としにし、現金を児童に持たせるリスクを減らしたり、教職員の業務を減らしたりした。

もとにあるのは子供たちにとってそれがいいかということであるが、それを外すことなく簡略化できるところを検討している。

- 仕事の全体量は変わらないのに教員不足、限られた時間の中で何とか仕事をするというのであればローテーション道徳のような方法や中学の専科のような方法もいい。最近文科省でも算数、理科などは専科がいいのではないかというようなことを言っている。5、6年になったらいいのかもしれない。1、2年生は一人の先生がよく面倒を見てその子のことをよく知っている先生がいるのがいいと思う。小学校の先生は全教科やるから大変ではあるが、個々の専門性を活かすのもいい。
- 豊小に来た人が「落ち着いていていい学校だ」と言っていた。それは具体的なものが何がいいということではなくて、いいということを肌で感じたのだと思う。